

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537
本年も何卒よろしく願い申し上げます。
『遼東の豕』（りょうとうのいのこ）：「広く知られている事を、自分だけが知っていると思ひ込んで得意がること」（豕は猪）。
今年の自らへの戒めとしたいと思います。

閑話休題—とあるお寺の話②

関東地方の某寺に厄除けに来た 3 人組。寒い中長時間外で待たされ、ようやく本堂の中へ足を踏み入れた話で、年が明けました。「そのまま中にお進みください」

「やっぱり本堂の中は立派やなあ。ご本尊はなんやろ？」。説明書きを読もうと足を止めた途端、お坊さんが声を挙げます。「立ち止まらないでください。そのまま前の方に従ってお進みください」。

「なんや、せわしないなあ」「しゃあない。後ろからも人がぎょうさん来るから、止まったら迷惑や」「それにしても、こんだけの人が入る待合室って、どんだけ広いねん」「そなや。そやけど、そんだけ広い部屋があるんやったら、最初っからそこで待たしてくれたらええのに」。

仏さんを観たらアカン、本堂内の雰囲気味わってもアカン。ただ静々と行進するだけ。「遊園地みたいに、待ってる間も楽しませてくれたらええねん。『さあみんな。元気かな～！今日は厄除けだね！ 準備はいいかい！』とか」「ピーターパンの衣装の代わりに袈裟着て、草履はいてな」

そうこうするうちに、あっという間に本堂を出てしまいました。もう外です。待合室もありません。

「えっ？待合室はどこ？ どこで厄除けすんの？次、どこに行ったらええの

ん？」。田舎者の僕ら 3 人が口々に言い合っていると、後ろから来たご婦人が見かねて声をかけてきました。

「どうかなさいましたか？」「いえ、厄除けに来たんですけど、次にどこに行ったらええかわからんから、迷ってたんです」

「厄除けなら、終わりましたよ」「いつ？」「今」「今って…いつ？」「本堂の中を歩いてこられたでしょう？ それで厄除けは終わったんです」「はあああ??!!」

なんやとお～！

本堂に座ることもなく、お坊さんのお経をちゃんと聞く事もなく、ご本尊を拝む事も立ち止まることさえかなわず、寒い中外でずっと待たされ、坊さんの読経と線香の煙の中をただ通り過ぎただけ。これで、厄除け？それであの値段？

「ちょっと待ってんか！」

手抜きにもほどがある。こら、あれやな。鰻の煙の値段と一緒にやな。「ケチな男が、ご飯だけ持って鰻屋の前に行く。いい匂いをかいてご飯を掻き込むために。鰻屋も黙ってない。「煙も鰻のうちや。吸うんやったら、金払うてや」—これや。

坊さんのお経のごくごく一部でも聞いたやろ？ 線香の煙を一瞬でも浴びたやろ？ ご本尊のそばを通ったやろ？ その値段ですがな、厄除け代は—という事？

ヨネやんは怒り心頭。「こんなん、厄除けどころか、厄が付いたわ、逆に。厄を付けるために金を払うたようなもんやがな」。

新年早々当時を思い出して血圧が上がるヨネやん。まだまだ修行が足りひん。

「これさえあれば」3巻シリーズ+紙とえんぴつ小道具フェア 絵はがきシュリンク出荷もやってます！ぜひお申込みを！